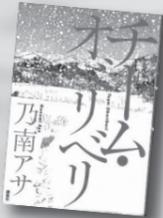




今月のおすすめ

一般

【中央】
【葦山】



チーム・オベリベリ
 乃南アサ／著
 講談社

約140年前。鈴木カネは、兄・銃太郎、依田勉三と共に「晩成社」を興した渡辺勝と結婚。「オベリベリ」と呼ばれた帯広の原野へ渡る。開拓に身を投じた実在の若者たちを基に描く長編。

一般

【葦山】



私が愛したトマト
 高樹のぶ子／著
 潮出版社

表題作は、作家を思わせる語り手の女性が、人生の折々に鮮烈に現れたトマトとの関わりを追想する。日常、過去、夢の中、宇宙とさまざまに行き来する11編の短編集。

一般

【中央】

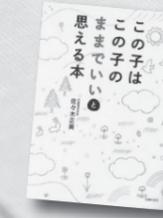


あがない
 倉数茂／著
 河出書房新社

堅実に働く解体作業員の祐は、薬物依存に陥り罪を犯した過去がある。若い男を助けたことで、慎重に紡いできた平穩は次第に脅かされる。存在の寄る辺なさを描く中編小説。

一般

【中央】



この子はこの子のままでいいと思える本
 佐々木正美／著
 主婦の友社

「いい子だからかわいがるのではない。かわいがるからいい子になる。」幸せな親子を増やしたいと願った児童精神科医が、お母さんたちの悩み相談に答えるラストメッセージ。

新着本コーナーから

- 一般 囚われの山 伊東潤／著 【葦山】
- 一般 魔女たちは眠りを守る 村山早紀／著 【中央】
- 一般 美女ステイホーム 林真理子／著 【葦山】
- 一般 消滅絶景 —もう見られない世界の美しい自然— ナショナルジオグラフィック／編 【葦山】
- 児童 雨ふる本屋と雨かんむりの花 日向理恵子／著 【葦山】
- 児童 あかいしろくま 柴田ケイコ／作 【中央・葦山】

9月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

○中央休館日 □葦山休館日
 ◇両館休館日 ☆おはなし会

9月のおはなし会

中央図書館 12日(土) 11:00～
 葦山図書館 12日(土) 14:00～
 26日(土) 14:00～
 ○感染防止対策を施したうえで実施します。

お知らせ

葦山図書館休館のお知らせ

葦山図書館は、特別整理期間のため次のとおり休館します。これは、本や雑誌などすべての所在を確認するために必要な休館です。期間中の返却は、ブックポストまたは中央図書館へお願いします。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。

■休館期間／
 9月21日(月)～25日(金)

中央図書館は、図書館カレンダーのとおり開館します。どうぞご利用ください。

文化財通信

その183

伊豆の国モノ語り ～モノが語る伊豆のクニの歴史～(全7回)

第4回 「かわらけから見る中世武士の暮らし」

文化財課 ☎ 055-948-1428

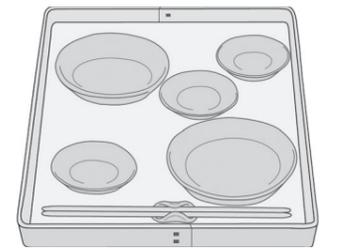


上：鎌倉時代のかわらけ(北条氏の館)
 下：灯明皿として使われたかわらけ(円成寺跡)

伊豆の国市の中世遺跡、とくに武士の館や城を発掘調査すると、「かわらけ」と呼ばれる皿がたくさん出土します。四日町・寺家にある北条氏の館や、葦山高校裏手の龍城山を本城とする葦山城では、出土遺物の約9割をかわらけが占め、遺跡によっては数万点も出土することがあります。このように大量に出土するかわらけはどのように使われたのでしょうか。

直径13cm前後と、8cm前後の大小2種類がセットで、室町時代になると、この中間の大きさが現れ、戦国時代にはさらに増えて5種類くらいに分かれます。成形方法はロクロを使う場合と、手びねりがあります。簡素な皿なので、ふだん使いの皿ですか？という質問を受けますが、そうではありません。実は儀式や正式な宴会、お供えなどに使われる「特別」な皿なのです。中世の武士の正式な宴会とは、現代でいえば、神前でおごそかにおこなわれる儀式、たとえば、結婚式で両家が対面してかための盃をかわす場面がイメージしやすいかもしれません。つまり、武士たちが集まり、主人と家臣、もしくは家臣同士のきずなを深める場で、かわらけが使われたのです。かわらけのもう一つの重要な要素としては、「使い捨て」ということがあります。素焼きの皿に酒や料理を入れると跡が残ってしまいます。儀式や宴会では、「折敷」とよばれる白木の盆の上に、酒や料理を盛りつけたかわらけをのせて運びます。新しい料理を運ぶ

時には、かわらけも新しいものに替え、一度使ったものは捨ててしまいます。そのため、館や城には大量のかわらけが残されているのです。このほか、かわらけは灯明皿として使用される場合があります。皿の縁に煤がついていることから分かります。灯明皿のかわらけは、寺家の円成寺跡や願成就院など、寺院の遺跡で多く出土することから、日常の明かりではなく、お寺の儀式などで使われる「特別」な用途であったと考えられます。かわらけは素朴な皿ですが、そこから中世武士の暮らし、さまざまな場面を想像してみることが出来ます。※今回紹介したかわらけは、郷土資料館で展示公開しています。



かわらけ使用のイメージ